

シリアル・イーサーネットコンバーター

TK-1810 設定ソフト

2018年9月20日 更新版

■目次

1	TK-1810 製品の概要	1
2	TK-1810 製品の特長	1
3	TK-1810 設定ソフト（本ソフト）の概要	1
4	設定ソフトご使用前に - 端末の準備	2
5	設定ソフトの使用方法 - 端末サーチ	2
6	設定ソフトの使用方法 - かんたん設定	3
7	設定ソフトの使用方法 - コマンド設定	4
8	その他 - 本体のディップスイッチを使って工場出荷時設定で起動する	5
9	その他 - 設定ソフトに仮想COMポートドライバーのインストーラーを同梱	5

PATOK

松本無線パーツ株式会社岩国

〒740-0018

山口県岩国市麻里布町4-14-24

TEL(0827)24-0081(代)

FAX(0827)24-1444

■ 1 TK-1810 製品の概要

- ◇本装置は、シリアル (RS-232C) 通信を、イーサネット (100BASE-T) に変換し、データのやりとりを行います。
- ◇シリアル通信ケーブルをイーサネットに変換し、延長するだけでなく、モデムやTAを使用して、アナログ電話回線やISDN回線を経由して通信する機器を、イーサネットに変更し易い設定を用意しています。

■ 2 TK-1810 製品の特長

- ◇設定により、モデム/TAエミュレーション機能を使用可能です。
 - モデムやTAの代わりに本装置を使用し、イーサネットを利用したデータ通信に置き換えることが可能です。
 - ※一部のコマンドは変更いただくか、本装置のファームウェアのカスタマイズ (有償) が必要になる場合があります。
- ◇PPPoE認証 (CHAP) に対応しています。
 - ※別途、インターネット契約やプロバイダー契約が必要です。
- ◇1回路のリレー接点出力を内蔵し、制御コマンドや、通信状態に応じてON/OFFが可能で、外部機器の制御に使用できます。
- ◇定格電源電圧5Vや24V仕様、または、基板のみをご用意できます。
- ◇Windows 7とWindows 10で動作する設定アプリケーション (仮想COMポートドライバ付) を、無償ダウンロードいただけます。
 - ※Windows 7で仮想COMポートドライバを使用する場合は、自動更新または「Windows Update」で最新の状態にされるか、更新プログラム (KB3033929) のインストールが必要です。

■ 3 TK-1810 設定ソフトの概要

- ◇本ソフトでは、LAN 接続にてTK-1810 端末の設定を行うことが出来ます。
 - また、本ソフト上で (同梱の) 仮想COMポートドライバのインストーラーを起動できます。

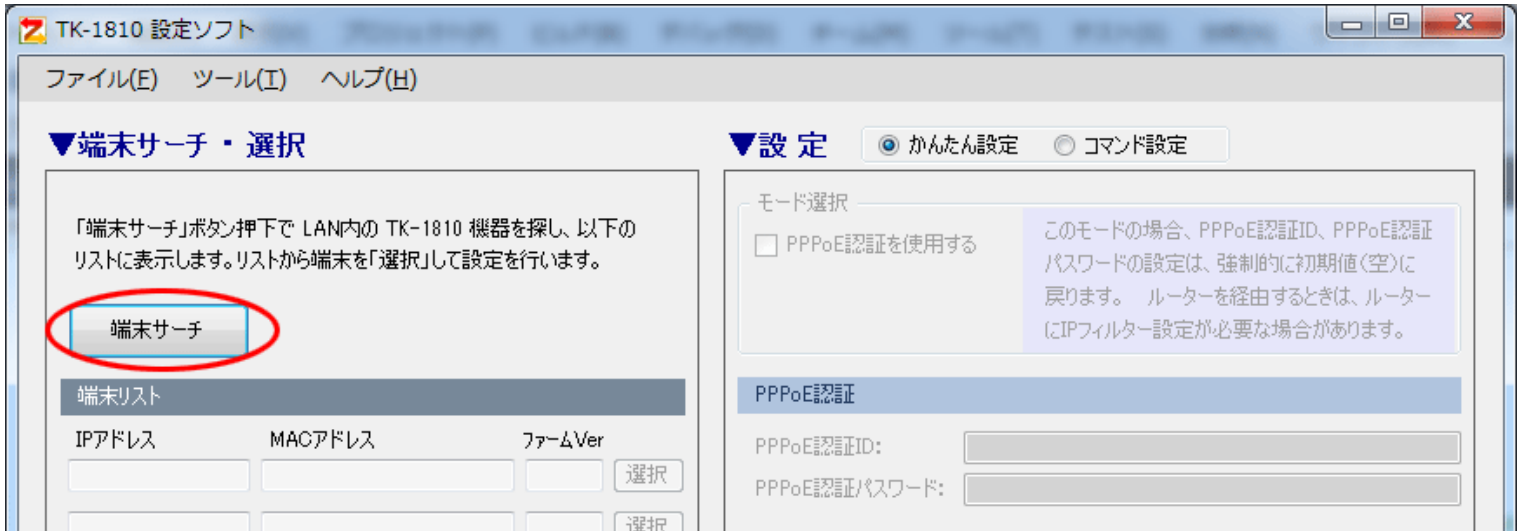
■ 4 設定ソフトご使用の前に - 端末の準備

TK-1810 端末を LAN ケーブルでスイッチング・ハブ等（同一 LAN 内など、本ソフトをインストールしたPCからのUDPブロードキャストが届く範囲内）に接続してください。

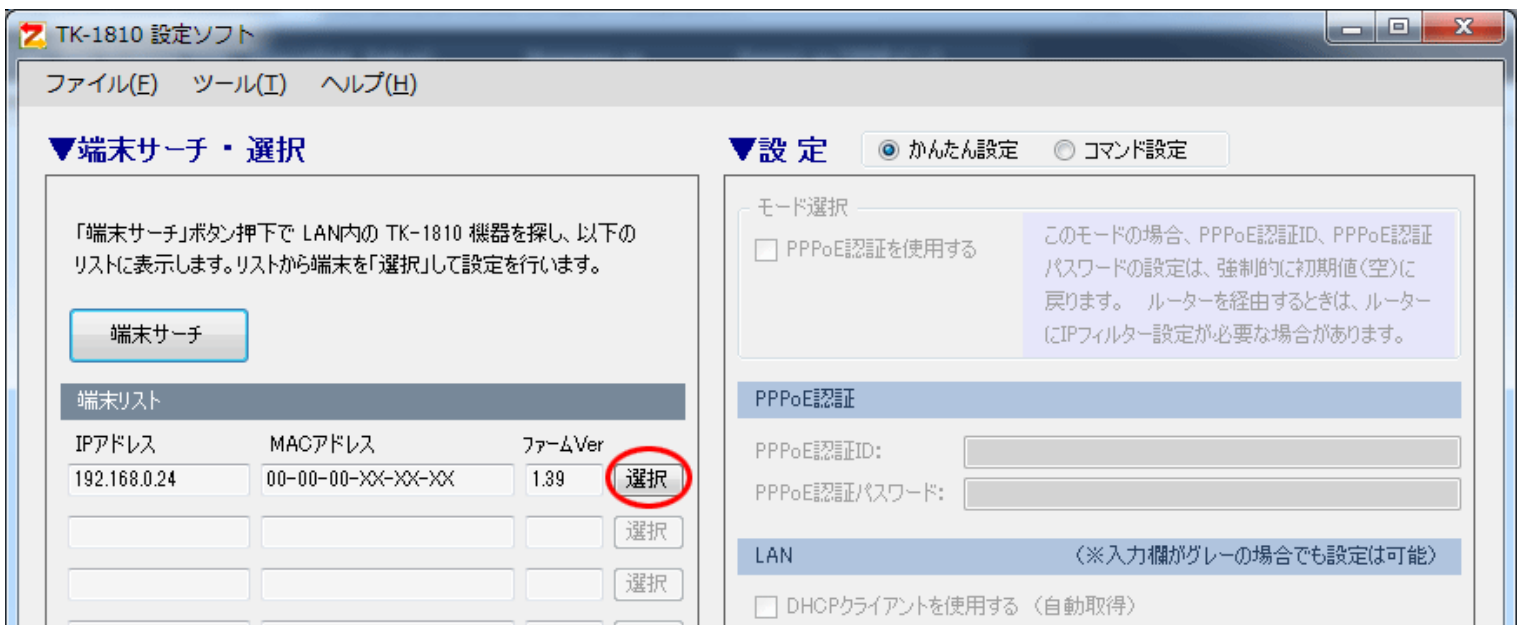
■ 5 設定ソフトの使用法 - 端末サーチ

下図の赤丸部のボタンをクリックして端末サーチを開始します。

※UDPブロードキャストでサーチ用のデータを送信します。TK-1810 端末がこのデータを受け取れば応答を返してきます。



TK-1810 端末が見つければ、下図のように端末リストに表示されます。



上図の赤丸部の [選択] ボタンをクリックすれば、当該端末の設定が読み込まれて右側に表示されます。

■6 設定ソフトの使用法 - かんたん設定

設定の変更は、[かんたん設定] または [コマンド設定] にて行います。
[かんたん設定] では下図のように基本的な設定の表示、変更ができます。

TK-1810 設定ソフト

ファイル(E) ツール(I) ヘルプ(H)

▼端末サーチ・選択

「端末サーチ」ボタン押下で LAN内の TK-1810 機器を探し、以下のリストに表示します。リストから端末を「選択」して設定を行います。

端末サーチ

端末リスト

IPアドレス	MACアドレス	ファームVer	
192.168.0.24	00-00-00-XX-XX-XX	1.39	選択
			選択
			選択
			選択
			選択
			選択
			選択

※書き込んだ設定を反映するには、本体の再起動が必要です。
※再起動後に当該端末の設定を再表示したい場合、再度「端末サーチ」を行って下さい。(IPアドレスが変わる場合など)
※設定内容によっては、再起動後に「端末サーチ」で探すことが出来なくなる場合があります。

▼設定

かんたん設定 コマンド設定

モード選択

PPPoE認証を使用する

このモードの場合、PPPoE認証ID、PPPoE認証パスワードの設定は、強制的に初期値(空)に戻ります。ルーターを経由するときは、ルーターにIPフィルター設定が必要な場合があります。

PPPoE認証

PPPoE認証ID:

PPPoE認証パスワード:

LAN (※入力欄がグレーの場合でも設定は可能)

DHCPクライアントを使用する (自動取得)

自局のIPアドレス: (0.0.0.0 で無効)

ゲートウェイ IPアドレス: (0.0.0.0 で無効)

サブネットマスク:

DNS情報

DNSサーバーアドレス1: [プライマリ] (0.0.0.0 で無効)

DNSサーバーアドレス2: [セカンダリ] (0.0.0.0 で無効)

端末設定用 TCPポート

TCPポート番号:

データ通信用 TCPポート

TCPポート番号:

TCPクライアント接続名:

設定書込

※他の設定を変更する場合は [コマンド設定] で行って下さい。

設定を変更した場合、上図の赤丸部 [設定書込] ボタンをクリックします。これで設定が端末本体に書き込まれ、保存されます。

【 [かんたん設定] で設定できる項目 】

- ・ PPPoE 認証を使用する／しない
- ・ PPPoE 認証 ID、PPPoE 認証パスワード (※PPPoE 認証を使用する場合のみ要設定)
- ・ 自局の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ IP アドレス
- ・ DNS サーバーアドレス (プライマリ)、DNS サーバーアドレス (セカンダリ)
- ・ 端末設定用 TCP ポート番号
- ・ データ通信用 TCP ポート番号、TCP クライアント接続名 (グローバル IP でも指定可)

※これ以外の詳細な設定を行う場合は、後述の [コマンド設定] で行います。

※書き込んだ設定を反映するには、本体の再起動が必要です。(書込終了後に「本体を再起動する／しない」の確認メッセージが出ます。)

※再起動後に当該端末の設定を再表示したい場合、再度「端末サーチ」を行ってください。(IP アドレスが変わる場合など。)

※設定内容によっては、再起動後に「端末サーチ」で探すことが出来なくなる場合があります。

意図せずそのようになってしまった場合は、後述の『8 その他 - 本体のディップスイッチを使って工場出荷時設定で起動する』をご参考に一度出荷時設定に戻す、または「リファレンスマニュアル」をご参考にシリアルインターフェース (RS-232C コネクタ) を使って本体設定を行う等でご対処ください。

■7 設定ソフトの使用法 - コマンド設定

設定の変更は、[かんたん設定] または [コマンド設定] にて行います。

[コマンド設定] では下図のようにコマンドの送受信により設定の表示、変更を行います。



上図の青丸部のコマンド入力欄に任意のコマンドを入力し、[送信] ボタンをクリック、または入力欄内で ENTER キーを押下することでコマンドを送ります。上図の通信モニタ部に、送信したコマンドに対する応答が表示されます。

この [コマンド設定] 機能は、特殊な方法を用いている為、コマンドを送っても本体にはまだ保存されていません。(設定保存コマンド「AT&W」を送った場合でも、「OK」の応答が返りますが本体にはまだ保存されていません。)

コマンドで設定を変更 (複数設定の変更も可) したら、最後に上図の赤丸部 [本体に設定を書込] ボタンをクリックします。これで設定が端末本体に書き込まれ、保存されます。

※書き込んだ設定を反映するには、本体の再起動が必要です。(書込終了後に「本体を再起動する/しない」の確認メッセージが出ます。)

※再起動後に当該端末の設定を再表示したい場合、再度「端末サーチ」を行ってください。(IP アドレスが変わる場合など。)

※設定内容によっては、再起動後に「端末サーチ」で探すことが出来なくなる場合があります。

意図せずそのようになってしまった場合は、後述の『8 その他 - 本体のディップスイッチを使って工場出荷時設定で起動する』をご参考に一度出荷時設定に戻す、または「リファレンスマニュアル」をご参考にシリアルインターフェース (RS-232C コネクタ) を使って本体設定を行う等でご対処ください。

※コマンドの内容については「リファレンスマニュアル」をご参照ください。本ソフトのヘルプメニューからも表示できます。(Web 上に公開している PDF ファイルへのリンクです。Web ブラウザが開きます。)

■ 8 その他 - 本体のディップスイッチを使って工場出荷時設定で起動する

本体ディップスイッチ（S1）のNo.3とNo.4を両方ONにした状態で電源を入れると、工場出荷時の設定になり、全LEDが点灯したままになります。その状態で、No.3かNo.4の何れかをOFFにすると工場出荷時の設定で起動します。

※本体ディップスイッチ（S1）はケース内にありますので、ケースの蓋を外す必要があります。

■ 9 その他 - 設定ソフトに仮想COMポートドライバーのインストーラーを同梱

ツールメニューから [仮想シリアルドライバのインストール] をクリックすると、インストーラーが起動します。

※ドライバの内容については「仮想シリアルドライバ説明書」をご参照ください。本ソフトのツールメニューからも表示できます。（Web上に公開しているPDFファイルへのリンクです。Webブラウザが開きます。）

以上です。